

学区内探検 鎌刃城跡

中山道の番場宿の南の384mの山頂に築かれた山城で、戦国時代は近江の北を治める浅井氏と南を治める六角氏との間の攻防の舞台となりました。また、戦国期後半は六角氏を滅ぼした織田信長と浅井長政が姉川の戦い以降、対峙しました。地域の方が遺構を大切に守り、保存活動に取り組む中、近年、研究が進み注目されています。石垣、堀切、曲輪などが見事に残り、その遺跡の規模は湖北でも最大級です。国の史跡に指定されています。また、続日本の名城100選にも選ばれた、湖北を代表する山城です。

